

「もうどうにでもなれと投げやいな気持ちになっていたが、 今日、大勢の仲間にも助けられ頑張る気持ちになれた。本当にありがとう」

21日、22日の二日間で全県の名民商などから60名が救援・激励行動に参加

長野県連からも大見県連会長・竹内事務局長を先頭に11名が支援物資を積んで救援に

震災から一週間、ライフラインが回復が遅れ、民商の事務所付近にやっと水道の水が出るようになりました。全市の水道の回復は今週いっぱいかかるといわれています。排水の施設にも被害があり、水道が回復しても風呂や洗濯、トイレ等の使用が制限される状態等がしばらく続くことも予想されます。比較的余震も少なく、壊れた住宅や店舗の後片付けに取り掛かっている人もでてきていますか、災害ごみ等の処理をどうするかを示されていないことなどもあり、建物の中の整理がつかない状態が続いています。建物が傾いているところは倒壊する恐れもあり、「住宅の診断」などの支援の要望も出てきています。会員の中には多くの建設業者もおり、民商の役割の発揮が求められています。

土日の二日間で60名の会員・事務局員などが被災者の要望に応え、工場の整理や被災した住宅の片付けの作業、支援物資を届けながらの激励行動を展開しました。

長野県連の役員さんは、テント材料のシートを何本も積んでトラックで駆けつけ、被災住宅で壊れた窓や軒先にシートを張り、雨が吹き込まないように応急工事を行い、「これで雨露が凌げる」と喜ばれました。店舗が半壊状態でボトルやガラスが粉々になって散乱し、手がつけられないでいた料飲業者は、「片づけ隊」が散乱したガラスを片づけてもらい、「店を再開するには、まだ時間がかかるが、片づけてもらって本当に助かった。どうしようかと思っていたが、気持ちが軽くなった」と。暑さも厳しくなる季節であり、高齢者や病気を抱えている人などの心配があります。被災者支援の活動も一層強めるとともに、被災者生活再建支援法を住宅・店舗などにも利用できる改善が緊急に求められます。

十日町民商の会長さんに震災の二日後に屋根にブルーシートをかける応急処理をしてもらった会員さんは、訪問すると「本当に助かりました。息子たちも屋根に上がってやろうとしたが出来なかった。本当に助かりました」と家族そろって頭を下げてお礼を述べ、「この建物をどうしたもんだらうか」と悩みが出され、早速一緒に訪問した大工さんが家の中に入って住宅の傾き、構造材に亀裂がないかどうか、屋根裏の状態がどうなっているか、土台のズレがどの程度で、修復が可能かどうかなど見ながら「傾きやゆがみも、土台のところから直していけば直る、しっかりした建物だから壊さないで直したほうが良い」のアドバイスに帰るときには、夫婦に笑顔が。繰り返し、訪問する活動の大切さも実感させられました。



椎谷地域(西山)の美容院の会員さんを訪問

震源地が目の前どころ。地震被害になっていなければ海岸沿いの眺めがすばらしい、きれいな場所。海岸沿いの山が、がけが崩れ交通止めになっていた。道路を迂回して訪問。これまで兄妹の行き来もしていなかったが、今回の地震で隣の実家の兄の家に身を寄せ世話を。地震の恐怖と一人であったこと、不安、不自由な生活を余儀なくされたことなど、今まで溜め込んでいた胸のうちを一気に話してくれました。「今回ほど人の情けが身にしみて感じたことはない。現在、私のほかに、もう一家族が加わり3世帯が一緒になって避難生活。世話になっているから、私のできることは10人分の食事の世話を一生懸命している」三条、魚沼、新潟市から駆けつけてくれたことに感激し、一人ひとりと握手し、「こんなに心配して駆けつけてくれてありがとう」と涙ながらに被災した様子を話してくれました。物資もありがたいと受け取ってくれました。「こんなときでもお客さんが来てくれたことに感謝している、仕事が励みになる」と震災後もお客さんが来てくれたことを教えてくれました。顔の表情も生き生きと「はたらく業者婦人」の顔でした。

ケガをした嫁さんのことを心配しながら

隣の人と助けあって避難生活を

奥さんが地震のとき2階にいて、逃げるときに階段の手すりが壊れ、頭から転落。重傷でヘリコプターで新潟市の病院に運ばれ、旦那さんが奥さんの付き添い、おじいちゃんも老健施設に預かってもらって、88歳のおばあちゃんだけ残されていた。家の外も内も手がつけられない危険な状態。散々な様子を見ていってくださいと案内してくれました。

「かあちゃんのことを心配で食事のどが通らない」「父ちゃんが今晚病院からもどってくれば、どうなったか話が聞けると思う。」「20メートル近く坂道をおりた隣の家に、今、厄介になっている。隣の家も片付けをしているので、作業小屋で隣のおばあちゃんと2人で休んでいる」と話していました。

重傷のお母さんは、仕事のやり繰り、食事の世話と一気に切り盛りしていた働き者のお母さんだそう。

隣の家にも支援物資を届け、早く回復し、元気になるといいね。食事もしっかりとってねと励ましあとにしました。

県災対連と現地の災対連が共同し

7/26より「中越沖地震救援共同センター」を開設

被災者の要望を結集し、全国からの救援ボランティアを受け入れ、支援活動をすすめる、全国に情報を発信する活動をすすめます。場所は 柏崎市宮場町1-21